麻布未来写真館

麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会

平成 29 年度 活動報告

港区麻布地区総合支所

港区平和都市宣言

かけがえのない美しい地球を守り、世界の恒久平和を願う人びとの心は一つであり、いつまでも変わることはありません。

私たちも真の平和を望みながら、文化や伝統を守り、生きがいに満ちたまちづくりに努めています。

このふれあいのある郷土、美しい大地をこれから生まれ育つこどもたちに伝えることは私たちの務めです。

私たちは、我が国が『非核三原則』を堅持することを求めるとともに、ここに広く核兵器の廃絶を訴え、心から平和の願いをこめて港区が平和都市であることを宣言します。

昭和６０年８月１５日

港　　区

はじめに

本活動報告は、麻布地区総合支所の地域事業「麻布未来写真館」において、区民参画組織「麻布を語る会『麻布未来写真館』分科会」が、平成29年度に取り組んだ活動の記録です。

「ファインダーをとおして、未来に向けた新しい麻布を発信していきます。」

写真には写された記録だけではなく、多くの人々にとっての体験の「記憶」が含められた、かけがえのない価値が備わっています。

本活動報告に掲載された写真は、新しいものも古いものも全て、ファインダーをとおして「麻布」をめぐる様々な人々の記憶を未来につなぐ貴重な記録です。

麻布の未来に向け、麻布地区総合支所は、多くの方々に記録と記憶の価値を伝え、区民の皆様の地域への共感や愛着をより一層高めてもらえるよう取り組んでまいります。

活動を進めるにあたり、様々なかたちでご尽力をいただきました区民の皆さんや関係者の方々に、心から御礼を申し上げます。

平成30年3月　港区麻布地区総合支所協働推進課

《　目　次　》

はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 01

Ⅰ．分科会活動の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 02

「麻布未来写真館」とは ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 02

パネル展の開催 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 03

Ⅱ．分科会メンバー作成パネルの紹介 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 05

パネルの作成 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 05

Ⅲ．これまでの活動を振り返って ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26

メンバーのことば ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26

Ⅳ．参考資料 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31

区民参画組織「麻布を語る会」とは

麻布地区総合支所では、平成18年に新たな総合支所制度を導入して以来、地域に住み、働き、学び、活動する多くの人々が区政に参加し、地区の課題の解決策や将来について、ともに議論し、協働によって目標を達成していく「参画」と「協働」の取組に力を入れてきました。

「麻布を語る会」とは、区民の参画と協働により、麻布地区の将来像「生活者優先の、安全で安心して快適に住み続けられる国際・文化都市」の実現に向け、区民主体の検討や取組を進めるために設置された麻布地区の区民参画組織です。

メンバーは、麻布地区内に居住、勤務、在学し、または麻布地区のために活動したい公募区民等によって構成され、平成30年3月現在、「麻布未来写真館」・「麻布地区政策」・「地域情報の発信」の3つのテーマに分かれて分科会を設置し、それぞれ活発な取組を進めています。

Ⅰ　分科会活動の概要

「麻布未来写真館」とは

「麻布未来写真館」事業実施の背景

麻布地区は、区内にある大使館の半数以上が集中し、外資系企業も多く立地するなど、国際的な「まち」です。また、外国人が多く利用する六本木の繁華街は、麻布の「まち」の国際的な魅力を高めることに貢献しています。麻布には由緒ある寺院や、毛利庭園のように大名屋敷の面影を今に残す庭園や、小説や落語に登場する坂や町名も多く残る歴史と文化の「まち」でもあります。

一方、アークヒルズ、泉ガーデンや六本木ヒルズ等に代表されるように、大規模なまちづくりによって「まち」が大きく変化しています。こうした大規模なまちづくりにより、貴重な歴史的資産や文化資産が喪失することがないようにするとともに、外国人を含む、麻布に暮らす多くの人々に麻布の歴史や文化をもっと知ってもらい、麻布の「まち」をより身近に感じ、愛着を感じてもらうための取組が重要です。

事業の趣旨

麻布地区総合支所では、平成 21 年度から区民や企業、大学等と協働し、麻布地区の昔の写真などを収集するとともに、定点写真を撮影し、麻布のまちの変化を保存する取組として「麻布未来写真館」事業を運営しています。

当事業は、麻布地区の資料収集・保存していくことを通じて、麻布地区に暮らす人々にとって身近な歴史・文化資源を保全・継承するとともに、より一層の活用を目的としています。

同時に、「まち」の歴史や文化をより多くの皆様に知っていただき、麻布地区への愛着を深めていただく一助となることを目指しています。

区民との協働事業

平成 29 年度は、広報紙等の募集を通じて集まった区民参画組織「麻布を語る会『麻布未来写真館』分科会」のメンバーとともに、地元企業等の協力を得ながら、ワーキングやまち歩き（撮影）等を実施し、５会場に分けてパネル展を開催しました。

麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会メンバー（平成 30 年３月１日現在）

天羽 大器、荒澤 經子、入江 誠、岡﨑 純子、小山 浩（副座長）、近藤 敏康（座長）、
櫻井 綾、鈴木 順二、田岡 恵美、椿 由美子、増子 照孔、水野 禮子、横島 久子、吉川 一郎

50 音順

パネル展等の開催

「麻布未来写真館」事業の一環として、これまでも開催してきた「パネル展」では、分科会活動の中で検討したテーマに基づき、メンバーが作成したパネルを展示しました。

事業開始から９年目を迎え、分科会メンバーの尽力とともに、地域の様々な方から、写真等のご提供など多大なご支援とご協力を賜り、質・内容とも従前にまさる展示内容とすることができました。今年度はパネル展を５会場で開催しました。また、常設の展示として、都立中央図書館、有栖川宮記念公園管理事務所の掲示スペース、港区麻布地区総合支所２階の通路及び麻布区民協働スペースロビーでの展示を行いました。

パネル展スケジュール

会場①：麻布図書館　５階 視聴覚室
平成 29 年６月６日（火）～６月 22 日（木）９：00 ～ 20：00

会場②：フジフイルム スクエア　ミニギャラリー
平成 30 年２月２日（金）～２月 15 日（木）10：00 ～ 19：00

会場③：港区麻布地区総合支所　１階 ロビー
平成 30 年２月 19 日（月）～３月２日（金）９：00 ～ 17：00

会場④：東洋英和女学院
本部・大学院棟１階 学院資料・村岡花子文庫展示コーナー
平成 30 年３月２日（金）～３月 26 日（月）９：00 ～ 19：00

会場⑤：ありすいきいきプラザ　１階 展示・読書コーナー
平成 30 年３月６日（火）～３月 28 日（水）９：00 ～ 20：00

麻布図書館展ポスター

フジフイルムスクエア展ポスター

パネル展ポスター

会場提供等、ご協力いただいた方々からのメッセージ

「麻布未来写真館」パネル展の開催にあたって

港区麻布地区総合支所様より「麻布未来写真館」パネル展のお話をいただき、今年で８回目の参加となりました。長年にわたりこの地で女子教育に携わることができましたのも、ひとえに地域の皆様方の温かいご理解、ご支援によるものであり、心より感謝申し上げます。

東洋英和女学院は、カナダ人宣教師のミス・マーサ・カートメルが麻布鳥居坂の地に、キリスト教の教えに基づいた教育をおこなうために明治 17 年（1884 年）に設立された学校です。今年創立 134 周年を迎えます。

幸いなことに、学院は関東大震災の時にも太平洋戦争の空襲時にも被災を免れて、明治時代からの写真資料をはじめとする数多くの資料が学院史料室に保管されております。

港区と学院は地域振興や国際交流等の分野で連携して取り組んでいくため、平成 28 年８月に連携協定を締結しました。このような交流の中で、今年もパネル展の機会を与えられ、かつての学院の近隣の様子を写真でご紹介することで、地域の皆様とこの地に対する思いを共有できますことを大変嬉しく思っております。

このパネル展が麻布地域の今後のさらなる発展のためにも意義深いものとなりますことをお祈りいたします。

平成 30 年３月吉日

東洋英和女学院　理事長　大宮　溥

院　長　深町　正信

酒井 ふみよ（東洋英和女学院史料室）

今年度は本校を会場とする「麻布未来写真館」のパネル展において、学校関係のパネルを選ばせていただきました。今は品川区旗の台にある香蘭女学校や目黒区大橋にある都立駒場高校の前身である府立第三高女が近くにあった写真が展示されていました。かつてお屋敷町であったこの地域に、明治になって建ったそうした学校と本校とは知られざる交流があったのではないか、資料や証言は残っていないだろうか、と興味が湧いてまいります。

平成 28 年８月に港区と本校は連携・協力に関する基本協定を締結しました。以前からの「麻布未来写真館」を通じての連携が今後一層強まり、133 年の歴史をこの地に刻み続ける本校の文化的資源が港区民にも活用していただける機会が増えていくことを願っています。

島田 知明（フジフイルム スクエア 館長）

フジフイルム スクエアでの「麻布未来写真館」パネル展は、今年も地元港区にお住まいの方から、全国遠方よりお越しの方、さらには海外から日本にご滞在中の方まで、幅広いお客様に楽しんでいただきました。古くから麻布をご存知の方からは懐かしむ声を、若い方たちからは驚きの声を、世代を超えて時代の記憶を語りあっていただく場となりました。写真は大切な記録であり、時を超えた語らいの媒体であることを改めて実感致しました。

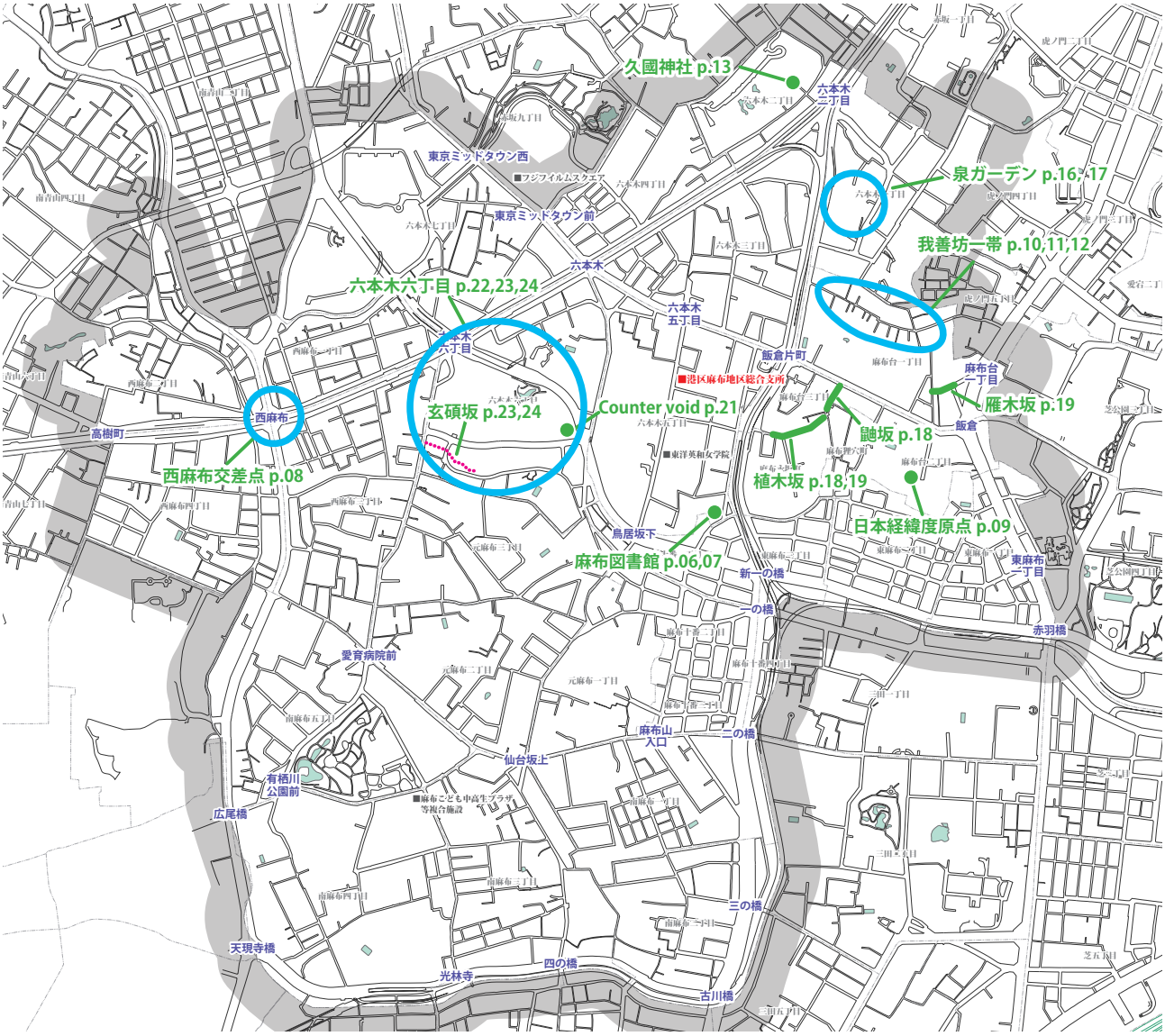
「麻布未来写真館」の事業が、社会的・文化的に意義の高い事業であると改めて実感致します。街の歴史はそのまま人の生活の歴史です。2020 年に向け、東京の街並みは急速に変化しつつありますが、麻布に住まわれる方、関わる皆さんの気持ちに寄り添った本事業に、弊館も微力ながらもご協力させていただきたいと存じます。

Ⅱ　分科会メンバー作成パネルの紹介

パネルの作成

パネルの作成にあたっては、「麻布未来写真館」事業で麻布のまちの変化を保存する取組として行っている「まち歩き（撮影）」での写真やパネル作成のために個別撮影した写真、また区民等から提供していただいた写真や資料を活用しました。

なお、「Ⅱ．分科会メンバー作成パネルの紹介」には、今年度の分科会活動で、関係機関などの協力のもと、写真・文献等の資料により、分科会メンバーが独自に調査し、作成したパネルの内容を掲載しています。



＜写真について＞

今年度作成した多くのパネルで新旧の比較を行っていますが、必ずしも同一視点からの撮影にはなっていません。また、変化の様子をとらえるためにあえて周辺のまち並みも写してイメージの伝わる構図としました。

なお、写真に写っている個人や所有（車等）の特定を避けるため、さらに撮影条件、画像の経年劣化等を補うために軽微な画像加工を一部加えています。

麻布図書館の歴史（昔の思い出）

昭和 29 年（1954 年）：旧麻布図書館 玄関

昭和 38 年（1963 年）：旧麻布図書館 玄関

昭和 29 年（1954 年）：旧麻布図書館 閲覧室の様子（1）

昭和 38 年（1963 年）：旧麻布図書館 閲覧室

昭和 29 年（1954 年）：
旧麻布図書館 閲覧室の様子（2）

昭和 38 年（1963 年）：
旧麻布図書館 こども室

かつて南山小学校に図書館があった頃、南山小学校に通っていた方からコメントをお寄せいただきました。

とても小さな図書館でしたが読書室には温かみが有りました。
しかし、当時は冷房は無かったので夏は暑かった。天井から吊り下げられたコロニアル風の扇風機でしのいでいました。
新図書館になった時の衝撃はエアコンでしたね。個人的には子ども向けの明智小五郎、ルパン、ホームズ等を読破した事。最後に読んだのは庄司薫の『白鳥の歌なんか聞こえない』、夢中で読んでいたおぼえがあります。

このページに掲載されている古い写真について／写真提供：港区立麻布図書館

麻布図書館の歴史（うつりかわり）

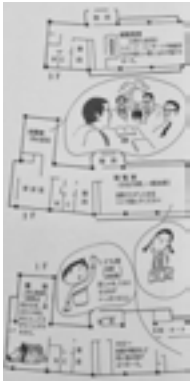
昭和 38 年（1963 年）：旧麻布図書館 外観全景

平成 29 年（2017 年）：現在の麻布図書館

麻布図書館は、明治 44 年 10 月、東京市立麻布簡易図書館として、南山小学校校内に創設されました。その後、大正 2 年（1913 年）、市立麻布図書館と改称、昭和 2 年（1927 年）、麻布高等小学校校内へ移転した後、昭和 6 年（1931 年）、独立館舎として現在の南山小学校のプールの辺りに建物が完成しました。
昭和 18 年（1943 年）、都立麻布図書館と改称、戦争のため一時休館しましたが、戦災をまぬがれ、昭和 22 年（1947 年）、区長に経営が移管され、昭和 25 年（1950 年）10 月、区立麻布図書館と改称されました。しかし老朽化に伴い、昭和 48 年（1973 年）に現在の敷地に移転しました。その後、建て替えのため、平成 21 年（2009 年）2 月 28 日に閉館。平成 26 年（2014 年）7 月 1 日にリニューアルし、現在の新しい麻布図書館が開館されました。その間、三田一丁目に麻布図書サービスセンターがつくられていました。
新しい図書館は、隣地も含めて敷地面積を増やし 5 階建。1 階に子育てひろば、乳幼児一時預かりの「あっぴぃ麻布」を併設しています。

リニューアル前の麻布図書館館内の様子（上 2 点とも）
（「港区立麻布図書館改築に係る基本構想・基本計画」より抜粋）

（写真左）リニューアル前の麻布図書館の外観
（写真右）リニューアル前の麻布図書館の閲覧室
（「昭和 49 年度版　今日の港区」より抜粋　（左 2 点とも））



完成まぢかい 麻布図書館の新館　（「広報みなと」（昭和 48 年 3 月 10 日号）より抜粋（上 4 点とも））

このページについて／参考資料：「広報みなと（昭和 48 年 3 月 10 日号）」、「港区立麻布図書館改築に係る基本構想・基本計画」、「昭和 49 年度　今日の港区」
写真提供など協力：港区立みなと図書館、港区立麻布図書館

西麻布交差点

昭和 33 年（1958 年）：桜田神社大祭（霞町交差点）

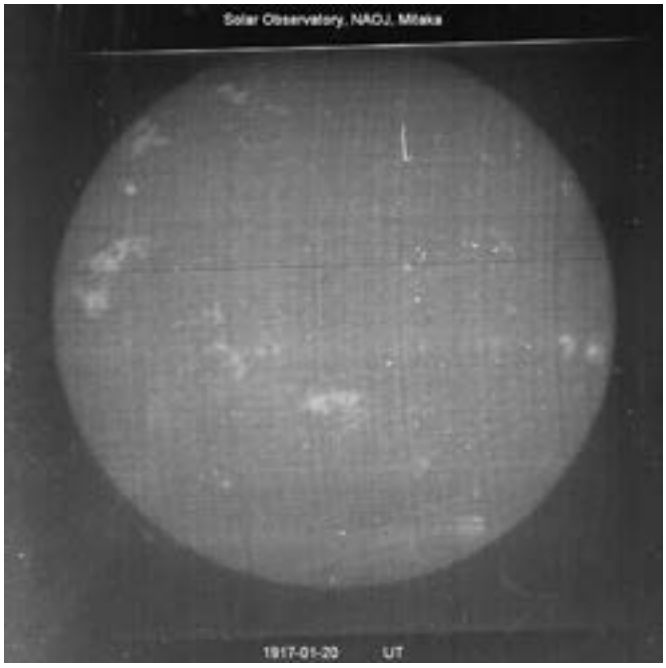
昭和 33 年（1958 年）に撮影された西麻布交差点（当時の名前は霞町交差点）の写真をご提供いただき、メンバー皆で拝見すると、写真左手奥に、特徴的なイチョウの大木を見つけた。もしやと思い、笄川の暗渠（あんきょ）になっている、外苑西通りと並行した裏通りを訪ねて行くと、繁成寺（はんじょうじ）境内にそびえ立つ目的のイチョウの大木が見つかった。樹齢約 200 年と推定されるイチョウの大木は、過去の震災・戦災を乗り越え、これまでも、これからも西麻布の歴史をみまもりつづけていくことだろう。

平成 29 年（2017 年）：西麻布交差点

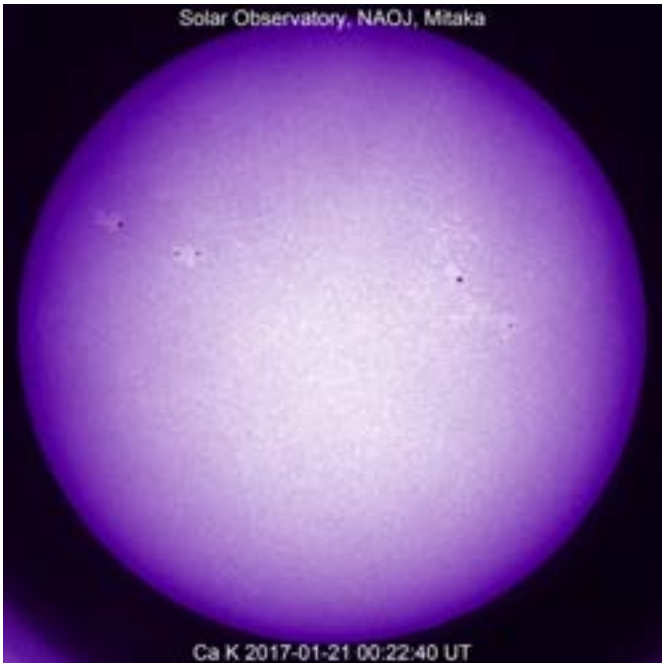
平成 29 年（2017 年）11 月：繁成寺の銀杏

このページに掲載されている古い写真について／写真提供：片山正 氏

はじまりは麻布から（初めての太陽写真観測）



大正 6 年（1917 年）1 月 20 日に撮影された太陽全画像



平成 29 年（2017 年）1 月 21 日に撮影された太陽全画像

保存されていた太陽全画像の乾板とその保管木箱

太陽フレア望遠鏡（国立天文台）

現在、日本経緯度原点が置かれている場所（港区麻布台二丁目）は、かつて旧海軍観象台が所在した地であり、明治 21 年（1888 年）、その跡地に東京天文台が設立された。その東京天文台で、日本で初めての太陽写真観測（カルシウム K 線）が行われたのは大正 6 年（1917 年）1 月 19 日のことで、関東大震災が起きた大正 12 年（1923 年）まで、この地で観測が続けられた。
本パネル左上の写真は、大正 6 年 1 月 20 日に東京天文台で撮影された太陽全画像であり、現在の国立天文台に長く保管されていた写真乾板の中から見つかったものである。

スペクトロヘリオグラフ

周辺の市街地化のため観測が次第に困難になり、東京天文台は大正 13 年（1924 年）に北多摩郡三鷹村大沢（現三鷹市）に移転。その後、昭和 49 年（1974 年）まで観測は続けられた。このカルシウム K 線による太陽全面像は、スペクトロヘリオグラフという装置を用いて撮影を行ってきた。
その後、一時中断していたが、平成 27 年（2015 年）7 月、太陽フレア望遠鏡のカルシウム K 線・太陽全面撮像装置を用いて観測を再開。平成 29 年（2017 年）には、初めての観測から 100 年を迎えた。

注：太陽光の紫色の波長帯にはカルシウム K 線という吸収線（393.3 ナノメートル）があり、この波長の光で撮影した太陽像は、太陽の磁気活動の様子や地球への紫外線の放射量を観測することができます。

このページに掲載されている古い写真について／資料提供：国立天文台・太陽観測所

我善坊（がぜんぼう）の桜

満開を迎えた雁木坂（がんぎざか）の桜

麻布台一丁目の一部を成す我善坊は、南側と北側の台地に挟まれた谷地で、その地形のとおり一帯は「我善坊谷」と呼ばれてきた。
二階建の木造家屋が軒を連ねる昔ながらの街並みは、古き良き昭和の時代を彷彿させる。
そんな我善坊には、桜並木こそないが、この地を愛し、50 年、60 年と住み続けてきた人びとが、その開花を楽しみに見守ってきた桜の木が点在している。

我善坊の氏神神社・西久保八幡神社の境内でお花見を楽しむ方々

横川省三記念公園の桜。公園内から撮影

横川省三記念公園の桜。狭い所から伸ばした枝に花を咲かせる姿は健気に映り、人びとから愛されている

麻布小学校校門脇の桜。新学期に胸をふくらませる子どもたちを励ますように咲いている

高い所から見た雁木坂の桜

我善坊（がぜんぼう）（高い所から）

写真左側の一角が我善坊。2 階建ての木造住宅や低層マンションなどが建ち並ぶ、昔ながらの街並み

六本木 1 丁目のマンション屋上から撮影。谷地にあたる我善坊の様子がよくわかる

外苑東通りに面して建つ麻布郵便局をオランダヒルズから撮影

このページに掲載されている写真について／写真撮影：平成 29 年（2017 年）

我善坊（がぜんぼう）（さまざまな横顔）

我善坊を貫く表通り

我善坊の崖上に建つ麻布郵便局

路地裏の風景

（写真右）我善坊谷坂上の通りから見た六本木一丁目のビル群

路地の突き当たりに崖が見える

崖下に建つ家屋

表通り

三年坂の上から我善坊を見下ろす

三年坂の踊り場から見た風景

横川省三記念公園の桜

蔦で覆われた家屋

路地裏

横川省三記念公園の水飲み場

民家の門の脇にひっそりと立つ地蔵

電柱上部に「我善坊」の表示

表通り

マンホール、防火水槽、合流桝のふた。それぞれに錆びた感じが時代を物語る

このページに掲載されている写真について／写真撮影：平成 29 年（2017 年）

ひさくにじんじゃ
久國神社（六本木二丁目）

戦前の社殿

戦後、再建された社殿

平成 28 年（2016 年）：現在の社殿

昭和 13 年（1938 年）：23 人が被害にあったがけ崩れの全貌

久國神社下の民家

修復中の崖

崖崩れの被害にあった民家

修復現場のトラック

久國神社から国会議事堂を望むことができた

久國神社前

平成 28 年（2016 年）：久國神社前

このページに掲載されている掲載されている古い写真について／写真提供：久國神社（六本木 2-1-16）

麻布の花ごよみ（１）

3月　コブシ（六本木ヒルズ）

4月　サクラ（本村公園）

3月　ニホンスイセン（六本木ヒルズ）

4月　サクラ（六本木ヒルズ・さくら坂上から）

4月　サクラ（六本木ヒルズ・さくら坂公園）

4月　タチツボスミレ（有栖川宮記念公園）

5月　ベニバナトチノキ（西麻布一丁目）

4月　モモ（南麻布三丁目）

麻布の花ごよみ（２）

5 月　オオアラセイトウ（元麻布二丁目）

6 月　ザクロ（麻布台一丁目）

6 月　アジサイ（西麻布三丁目）

5 月　ノカンゾウ（六本木七丁目）

5 月　ヒルガオ（六本木三丁目）

10 月　ハイビスカス（西麻布三丁目）

5 月　ポピー（元麻布二丁目）

9 月　ランタナ（西麻布三丁目）

旧住友会館と住友麻布ハイツアパートのある風景－泉ガーデン今昔①

平成 8 年（1996 年）：旧住友会館
後方に見えるのは住友麻布ハイツアパート

平成 8 年（1996 年）：旧住友会館の庭園

平成 8 年（1996 年）：旧住友会館の庭園
中央の灯篭は現在も緑地の一角に佇んでいる（右写真参照）

地下鉄南北線六本木一丁目駅から傾斜地をのぼり、「泉はし」を渡ると、閑静な緑地が広がっている。その一角に、かつてこの地に在った旧住友会館の碑がひっそりと立っている。
空に向かって飛翔するかのようにカーブを描いた屋根が特徴的なこの建物は、昭和 40 年（1965 年）、住友家麻布別邸の跡地に迎賓施設として建てられたもので、同会館に隣接する形で建てられた住友麻布ハイツアパート共々、長らく、街の風景として道行く人びとから親しまれてきた。
旧住友会館、住友麻布ハイツアパートは昭和から平成にかけての再開発に伴い取り壊され、一帯は平成 14 年（2002 年）、新しいまち、泉ガーデンとして生まれ変わった。
現在、「泉はし」の向こうに広がる緑地は、住友家麻布別邸から旧住友会館へと受け継がれてきた庭園の緑を保全活用したもので、当時の面影をしのぶことができる。
本パネルでは、その印象的な外観から、いまも懐かしむ声が寄せられる旧住友会館、住友麻布ハイツアパートの姿をさまざまな角度から紹介したい。

平成 8 年（1996 年）：
空から見た旧住友会館と住友麻布ハイツアパート

平成 30 年（2018 年）：泉ガーデンの
緑地にその姿を留める古い灯篭

平成 30 年（2018 年）：泉ガーデンの
緑地の一角に立つ旧住友会館の碑

このページに掲載されている古い写真（上段・中段・下段左）について／
写真集『麻布ハイツアパート周辺』（平成 8 年 11 月・日建設計／撮影：篠澤建築写真事務所）より転載

旧住友会館と住友麻布ハイツアパートのある風景－泉ガーデン今昔②

平成 8 年（1996 年）：庭園に臨む旧住友会館

平成 8 年（1996 年）：住友麻布ハイツアパート

平成 8 年（1996 年）：旧住友会館とスペイン大使館の間の道。神谷町方面に向かって撮影

平成 24 年（2012 年）：高い所から見た泉ガーデンの緑地
緑地中央の通路を挟んで右上に見える長方形の建物は住友家が蒐集した美術品を保存、展示する美術館、泉屋博古館分館

平成 30 年（2018 年）：泉ガーデンの緑地とスペイン大使館の間の道。
神谷町方面に向かって撮影

資料：『増補 港区近代沿革図集 麻布・六本木』
「港区道路図」から編成［昭和 61 年（1986 年）］

このページに掲載されている古い写真（上段 3 点）について／写真集『麻布ハイツアパート周辺』（平成 8 年 11 月・日建設計／撮影：篠澤建築写真事務所）より転載

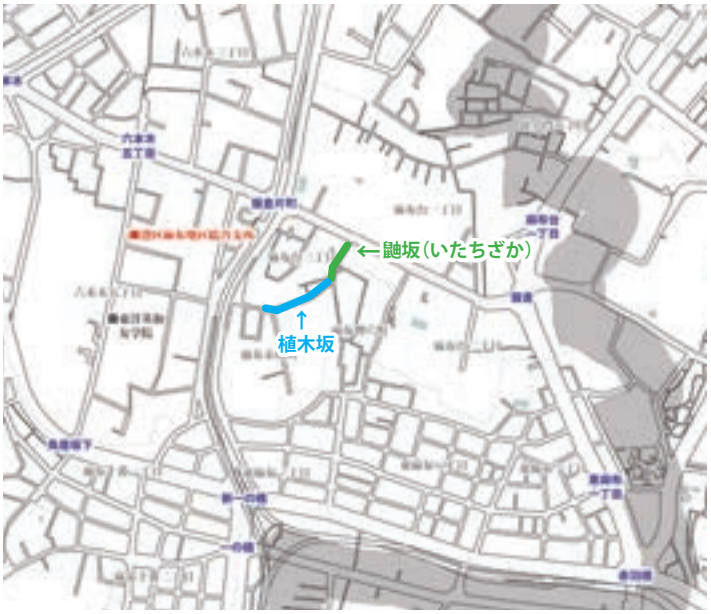
小説の中の麻布　～麻布台付近（植木坂（うえきざか）・鼬坂（いたちざか））～

麻布には多くの作家が住んでいた。麻布が作品の舞台になることも多い。

平成 23 年（2011 年）：植木坂下から鼬坂（いたちざか）を見上げる。
右側角のビルは高層マンションになり、歩道は広くなった。

平成 29 年（2017 年）：鼬坂（いたちざか）

伊藤整は 23 歳（1928 年）の頃、麻布に一時住んでいた。
「増上寺の裏手から麻布六本木に行く電車道の途中を左に折れて、狭い坂道を下り、一番低い場所に下ってからまた丘の斜面を登ってゆく。主人が植木職という下宿に引っ越した。部屋は裏手の丘をのぼっていく崖の道に面した四畳半だ。」これは麻布台三丁目と麻布永坂町の間の植木坂の一角だ。近くに島崎藤村も住んでおり、伊藤整は鼬坂（いたちざか）の途中で尊敬する藤村を見かけている。
伊藤整の下宿には『檸檬』で有名な梶井基次郎も住んでいた。
「私の部屋は良い部屋です。難を言えば造りが薄手に出来ていて湿気などに敏感なことです。一つの窓は樹木とそして崖に近く、一つの窓は奥狸穴などの低地をへだてて飯倉の電車道に臨む展望です。その展望の中には旧徳川邸の椎の老木があります。」
彼は麻布の色々な植物を文中に登場させる。卯の花、殻斗（カクト）科の花、七葉樹、キコク（カラタチ）、忍冬（スイカズラ）、かなひで（朴の木の一種）、樫の木等々。
麻布区史に掲載された天然記念物指定樹の中に旧徳川邸のキハダ（飯倉町貯金局構内。現麻布郵便局）がある。キハダは椎の木ではないが、カラスアゲハ等が好む木だ。麻布にアゲハが多い証拠になる。梶井は我善坊で蛍を見つけた人がいると書いている。梶井と伊藤は二人で、丘を下り麻布十番の喫茶店で苺クリームを食べたこともある。
平岩弓枝の『御宿かわせみ』の主人公は麻布台の隣、麻布狸穴町（あざぶまみあなちょう）の道場の師範代である。
池波正太郎の『鬼平犯科帳』にも植木坂が出てくる。飯倉付近を歩いていた鬼平は後ろから数人の浪人が付けていることに気付く。立ち合いは狭い道の方が良いと鬼平は考え植木坂に曲がる。



平成 23 年（2011 年）：植木坂から飯倉方面
左側のビルは、高層マンションに建て替えられた。

参考資料：『若い詩人の肖像』伊藤整、『泥濘』『路上』『橡の木』梶井基次郎、『鬼平犯科帳 麻布一本松』池波正太郎、『御宿かわせみ 鬼の面 麻布の秋』平岩弓枝

小説の中の麻布　～麻布台付近（植木坂（うえきざか）・雁木坂（がんぎざか））～

麻布には多くの作家が住んでいた。麻布が作品の舞台になることも多い。

昭和 57 年（1982 年）：雁木坂（がんぎざか）

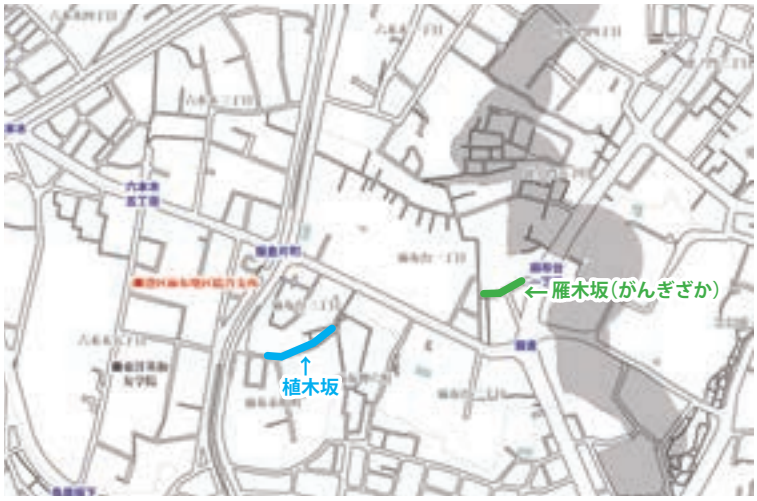
平成 29 年（2017 年）：雁木坂（がんぎざか）

平成 23 年（2011 年）：植木坂

『大東京繁昌記』は昭和 2 年（1927 年）に東京日日新聞に掲載され、翌年まとめて発行された東京案内のような本である。東京の各地を別々の作家が執筆している。島崎藤村は「山手篇」の「飯倉附近」を書いている。実際に藤村は飯倉に住んでいたため、その描写も生活感が漂う。

高層のビルがないために、麻布の丘、台地の起伏が分かる。麹町方面から赤坂はどのように見えるか、三田から見た麻布台の地形等を書いている。

藤村は、雁木坂（がんぎざか：麻布台一丁目）について「駕籠（かご）で往来した時代の名残がそこにはある。足を踏みしめ昇降した駕籠かきの歩いた道はあの刻んであるような古い石畳みの階段に残っている。」と言っている。そのいわれについて、藤村の大阪の読者は「今の石段のある前に丸太が雁木に並べてあったと思う」とのこと。上諏訪の読者は、「雪におおわれた冬の通行路をガングと言い、その訛りではないか」と送ってきた。さらに竹久夢二が「岡山地方ではガンギは「階段」を意味する言葉だ」とのこと。藤村は夢二の意見が一番自然と言っている。



野坂昭如も「植木坂を降りきったところの裏のアパートに昭和 32 年（1957 年）から、2 年間住んでいた。」「赤坂見附から虎ノ門にいたる以前の外堀と、青山一丁目から墓地下を過ぎて霞町、日赤病院下に向かう低地にはさまれて、竜土町、六本木、三河台町を結ぶ通りは、馬の背の如き印象だった。左右どちらへ入っても、急な下り坂、そしてその坂は、石畳だったり、階段だったり、神戸の、ただやみくもに山から海へくだる坂とちがって、鬱蒼（うっそう）たる樹木の繁みとあいたち、いずれもいわくありげに思える。」「山肌を縫う木樵道のような細い足場をたしかめつつ、これは大袈裟ではなく、夜など懐中電灯を持たなければ、とても歩けない、右はブリヂストンの社長邸、左は深い低地で、ラグビーグラウンド半分くらいの平らな底に、家が一軒だけ建つ。下りきると公園があり、五、六件の商店が並ぶ。」

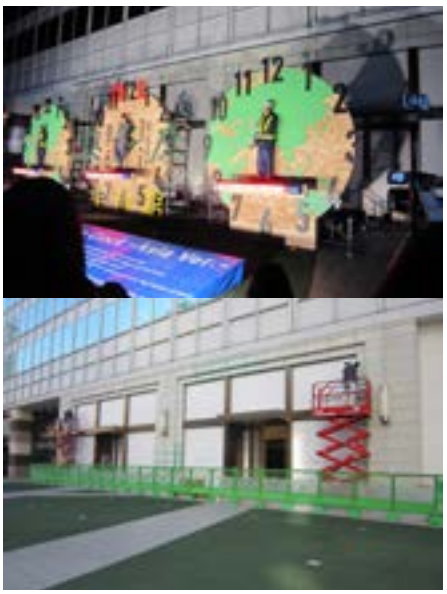
この細い道は梶井基次郎が近道をして滑り落ちそうになった斜面を彷彿させる。

参考資料：『大東京繁昌記』島崎藤村、『東京十二契』野坂昭如

麻布とアート　ー六本木アートナイトー

山本洋子（バルーンランド）『アジアの花』- 六本木交差点付近の時計台が存在感のある姿に変身していた。（写真左）　日中の時計台（写真右）

リム・ソクチャンリナ、ナット・スワディー他『アジア映像集』- 芋洗坂の駐車場。屋外の上映会は開放感に浸ることができた。（写真上）日中の同駐車場（写真下）



国立奥多摩美術館『国立奥多摩美術館 24 時間人間時計～アジア編～』- 六本木ヒルズノースタワー前。彼らは「24 時間人間時計」に挑戦した。（写真上）日中のノースタワー。工事中であった。（写真下）

ナウィン・ラワンチャイクン『OK のまつり』- 六本木西公園。会場内では短編映画上映、オリジナルのサルサパフォーマンス、アーティストトーク、ワークショップなどが開催された。（写真上）日中の六本木西公園（写真下）

ゾロ・フィーグル『フラ』- 第一レーヌビル。機械仕掛けでリボンが宙を舞っていた。（写真上）次の店のオープンを待っている空き店舗（写真下）

麻布地区内には数多くのアートに関する施設（美術館やアートギャラリー）が存在し、また道路沿いに彫刻が点在している。一方で一定期間内のみ観ることができるアートも存在している。六本木アートナイトもその一つである。六本木アートナイトは平成 21 年（2009 年）3 月に始まり、六本木を舞台に現代アート、デザイン、音楽、映像、パフォーマンス等の多様な作品を街なかに点在させ、非日常的な一夜限りの体験をつくり出すイベントである。平成 29 年（2017 年）は、「未来ノマツリ」というテーマのもと、コアタイム（メインとなるインスタレーションやイベントが開催される時間）が、9/30（土）17:27（日没）～ 10/1（日）5:36（日の出）に設定された。
ここでは、アートナイトの作品を何点かピックアップし、日中の風景と対比させた。
参照：六本木アートナイト（公式）http://www.roppongiartnight.com/2018/index.html

このページに掲載されている写真について／夜間撮影分は、平成 29 年（2017 年）9 月 30 日～ 10 月 1 日。日中撮影分は、平成 30 年（2018 年）1 月。

麻布とアート　ー Counter Void ー

左の写真と同じ角度からの日中の同作（2018 年 1 月撮影）

（写真左）震災前年　けやき坂のイルミネーションが映り込んだ『Counter Void』、（写真右）けやき坂のイルミネーションと『Counter Void』
（左右とも 2010 年 1 月撮影）

「Relight Days」再び灯った『Counter Void』（写真 3 点とも 2017 年 3 月撮影）
写真撮影：丸尾隆一氏 ⓒリライトプロジェクト（2017 年撮影分のみ）
写真提供：リライトプロジェクト（2017 年撮影分のみ）

左の写真と似た角度での日中風景（2018 年 1 月撮影）

現代アーティスト宮島達男氏により、テレビ朝日本社ビル前に設置された作品『Counter Void』。「生と死」をテーマに 2003 年に制作された高さ 5m、全長 50m の巨大な光のパブリックアート作品である。昼夜点灯する作品だったが、2011 年の東日本大震災の 2 日後、被災された方々への哀悼の意を込め、作家本人により消灯された。その後、再点灯に向けての様々な活動を包括する「光の蘇生」プロジェクトを経たのち、2015 年より再点灯へのプロセスの設計が「Relight Project*」に引き継がれ、2016 年と 2017 年の 3 月 11 日～ 13 日に実際に『Counter Void』を再点灯させる「Relight Days（リライトデイズ）」が実施された。2018 年 3 月 11 日から 3 日間の Relight Days2018 が、Relight Project としての最後の再点灯となった。パネル上段夜景の 2 枚が震災前年の同作風景、パネル中段の左および中央、下段の写真は Relight Days において再点灯された同作。

*Relight Project は、未来の生き方や人間のあり方を考えるプラットフォームを目指すアートプロジェクト。1 年に 3 日間限定で『Counter Void』を再点灯する Relight Days の開催のほか、社会彫刻家の育成を行なう市民大学 Relight Committee の運営に取り組んでいる。
主催：東京都、アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）、NPO 法人インビジブル

あのころの六本木六丁目　玄碩坂（げんせきざか）

昭和 50 年（1975 年）：坂上からの眺め
奥の横長の建物は城南高校、
その右上は建設中の三田国際ビル

中央は坂上のテレビ朝日通りに面していた竹皮屋ビル

昭和 59 年（1984 年）：坂下から
左に区が設置した標柱が立つ

坂上のテレビ朝日通りをゆく祭りの神輿

坂のなかほど 左に曲がると妙経寺があった

日本たばこ産業の社宅から玄碩坂方面を望む

六本木ヒルズが建設される前のこと。テレビ朝日通りから麻布十番のほうへと南東に向かって下る、狭く急な坂道があった。桜田神社の向かい側あたりが坂の入り口で、港区が設けた木製の標柱には、このように書かれていた。「玄碩坂　近くに玄碩という僧が住んでいたので、坂名にしたといい伝えている。薮下というところへおりる坂で、薮下坂とも呼んだ。」江戸時代の地図にものっている古い坂だった。くねくねと曲がった道をたどって坂下までくると、右側は急傾斜の上り斜面に民家が階段状に並んでいた。建物のあいだには細い階段が通じていた。その上部は、現在もまださくら坂の南側に残っている。
坂下から十番に向かうと、左に大きな金魚屋さんがあった。昭和のころは奥が釣り堀になっていて、週末には子どもたちで賑わった。その辺りがかつて薮下（やぶした）と呼ばれていたようだ。道沿いの石垣の下からは清水が湧きだして水溜まりとなり、メダカを見かけることもあった。今日毛利庭園となっている場所もそうだが、昔は、一帯の低地のあちこちに澄んだ水が湧いていたのだろう。

このページに掲載されている古い写真について／写真提供：森ビル株式会社、（写真左２点）写真撮影：田口政典氏、写真提供：田口重久氏

あのころの六本木六丁目　日ケ窪（ひがくぼ）

テレビ朝日・本館から玄碩坂（げんせきざか）方面を望む。右は秀和材木町レジデンス

中央の白い建物はテレビ朝日・本館

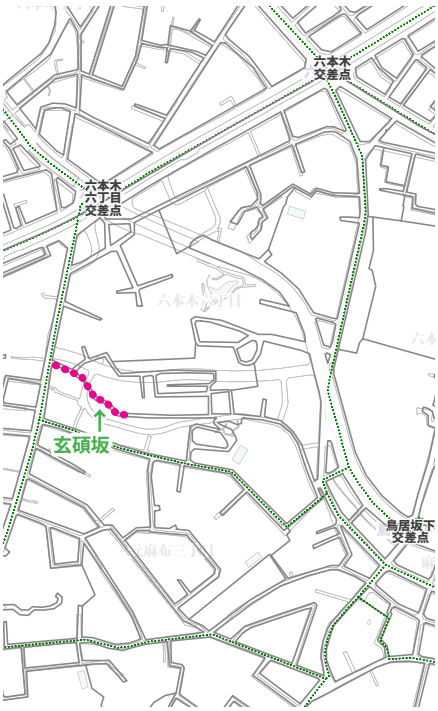
公団・北日ヶ窪住宅

北日ヶ窪住宅　今ではあまり見かけなくなった公衆電話ボックスが立つ

昭和 55 年（1980 年）：北日ヶ窪児童遊園の入口なかには乃木大将生誕之地の石碑が立っていた

元ニッカウヰスキー東京工場の敷地にあった池現在の毛利庭園の位置にあたる

池の畔に下る階段



平成 12 年（2000 年）に六本木ヒルズが着工されるまで、六本木六丁目の南側一帯には、多くの民家が立ち並んでいた。その様子を伝えるのがこれらの写真である。

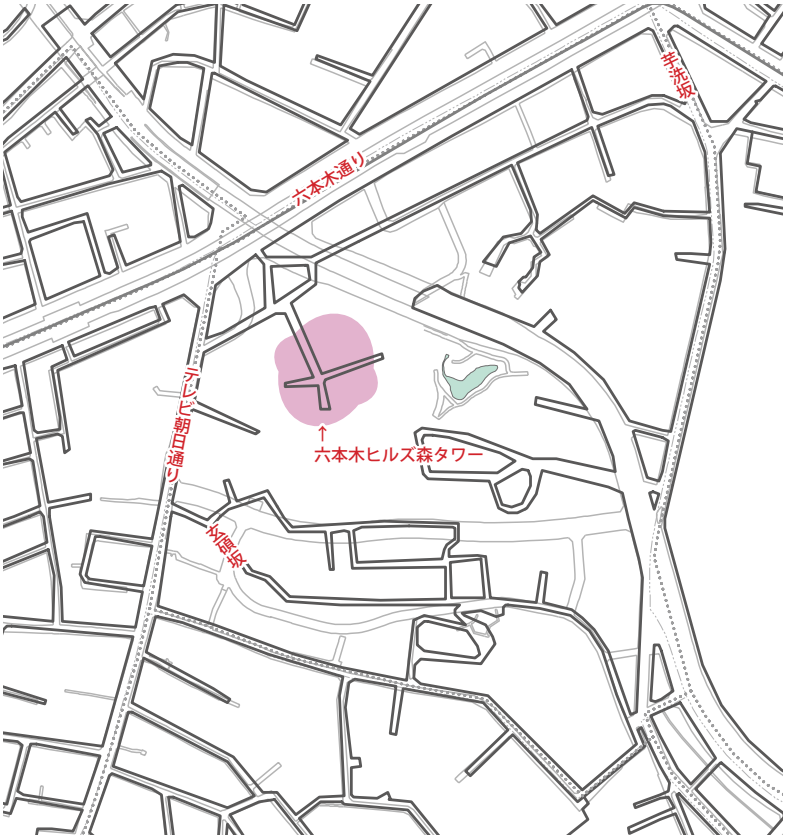
かつてこの地域の大部分は麻布北日ヶ窪（きたひがくぼ）町と呼ばれ、一部は麻布桜田町、麻布宮村町にふくまれていた。それが 1960 年代に住居表示化により町名変更が行われ、六本木六丁目となったのである。今日さくら坂公園に立つ乃木大将生誕之地の石碑があった北日ヶ窪児童遊園の名称は、古い町名に由来する。

資料：『増補 港区近代沿革図集 麻布・六本木』「港区道路図」から編成［昭和 61 年（1986 年）］

このパネルに掲載されている古い写真について／写真提供：森ビル株式会社、（写真右上から 3 段目）写真撮影：田口政典氏、写真提供：田口重久氏

あのころの六本木六丁目　（現六本木ヒルズ周辺）

① 東日ビル
② WAVE
③ 熊本会館
④ 六本木公園
⑤ 城南中学校
⑥ 乗泉寺麻布別院
⑦ テレビ朝日本館
⑧ 元ニッカウヰスキー　東京工場
⑨ 公団北日ヶ窪住宅
⑩ 元アルゼンチン大使館
⑪ スウェーデンセンタービル
⑫ 宝タクシー
⑬ 城南高等学校
⑭ 日本たばこ産業
　六本木六丁目アパート
⑮ 旧麻布保健所
⑯ 原安太郎商店（鑑賞魚問屋）
⑰ 北日ヶ窪児童遊園
⑱ 秀和材木町レジデンス



六本木ヒルズは六本木六丁目市街地の再開発により、平成 15 年（2003 年）4 月にオープンした。上の写真は、既存建物の解体工事が始まる以前に上空から撮影された六本木六丁目である。北側は六本木通りが走る台地だが、南側は窪地で周囲とかなり高低差があった。この低地はかつて「日ヶ窪」、「薮下」などと呼ばれていた。窪地の南縁にあった玄碩坂（げんせきざか）という急坂と 10 数メートルの段差は再開発工事で手が加えられ、今日見られるようになだらかな「けやき坂」、「さくら坂」に姿を変えた。

再開発以前からこの地にあった石碑などは、六本木ヒルズの南端に位置するさくら坂公園に移設された。北日ケ窪児童遊園（写真では⑰）にあった乃木大将生誕之地の碑と元アルゼンチン大使館（写真では⑩）の石造りの門柱２本である。これらは、今はさくら坂公園の南西の隅に見ることができる。ちなみに、さくら坂公園は、六本木公園（写真では④）と北日ヶ窪児童遊園を統合してつくられたそうだ。ここには旧麻布保健所が建っていた（写真では⑮）。

域内にあった城南中学校と城南高等学校は、近隣校との統合などを経て、それぞれ六本木中学校、六本木高等学校となり今日に至っている。

左の図は、再開発以前の六本木六丁目周辺（太い線）に現状の地図（薄い線）を重ねたものである。

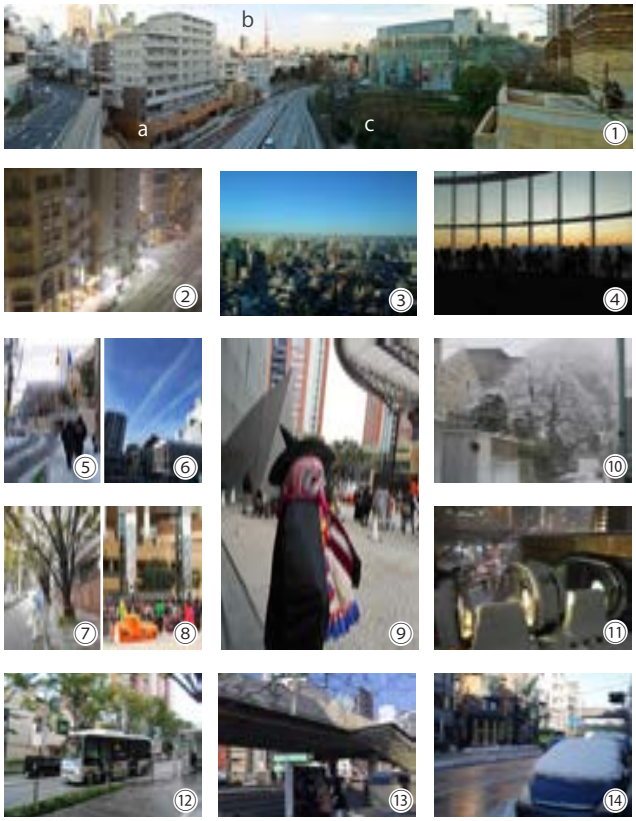
このページに掲載されている写真について／写真提供：森ビル株式会社

麻布の防災

① 麻布の空を飛ぶ東京消防庁航空隊のヘリコプター
② 麻布運動場軟式野球場 横にある港区防災資機材置場
③ 防災訓練会場となった六本木中学校。
　平成 29 年度は 1,000 人を超える方々が参加。
④消火訓練：放水を体験する参加者（３枚とも同じ建物）
⑤ 防災訓練の会場に設置されたマンホールトイレ
⑥ 防災地図と消火器、防火水槽
⑦ 防火水槽各所に掲示された海抜標示
⑧ ⑨ ⑩ 各所に掲示された海抜標示

撮影年：平成 29 年（2017 年）

麻布いろいろ



① 六本木ヒルズから撮影
　a. 港区区営住宅シティハイツ六本木　b. 東京タワー　c. 毛利庭園
② 雪　西麻布は真っ白
③ 六本木ヒルズから房総方面を望む
④ 六本木ヒルズ展望台からの富士山
⑤ 雪の大横町坂
⑥ 一の橋交差点
⑦ 雨の六本木けやき坂
⑧ 六本木ヒルズのハロウィン
⑨ 六本木ヒルズのハロウィン（ピエロ）
⑩ 南麻布一丁目　雪の街
⑪ メトロハット横のエスカレーターと雪
⑫ 六本木けやき坂を走るコミュニティバス『ちぃばす』
⑬ デジタルサイネージが街なかに
⑭ 雪　翌朝の西麻布

撮影年：平成 29 年（2017 年）～ 平成 30 年（2018 年）

Ⅲ　これまでの活動を振り返って

副座長　小山 浩

写真は 2005 年頃、芝の高層オフィスビルから写した南麻布 1 丁目付近。
中央の緑は有栖川宮記念公園。その後ろは広尾のアパートです。
さらに後ろの左側のビルは三軒茶屋のキャロットタワー。
さらに後ろには山まで見える。
撮影前夜に雪が降っていたと記憶しています。
来年度も仲良く、しっかり活動していきたいです。

メンバー　天羽 大器

麻布には知られていない史跡が多い。麻布未来写真館は古い写真を通して拾いあげている。今年、港区の都市計画課が募集した「区民景観セレクション」に「六本木墓苑」を紹介した。大都会六本木に眠る墓地であり、ビルにかこまれた場所に江戸時代が残っていて、こういう場所は麻布にまだまだあり、牛坂の坂下に蔵や塔がある。
森ビル提供で六本木ヒルズになる前の写真を使用したパネルを作成した。麻布図書館、久國神社なども古い写真を使用しパネルを作成した。このようにまだまだ古い写真があれば、パネルにしてしまう力のあるメンバーなので古い写真を提供してほしい。

メンバー　荒澤 經子

青山から西麻布に住まいが移り、新しい出会いに霞町の盆踊りがありました。
「麻布坂道小唄」の曲で踊りながら、思いもかけない地域の歴史を知り、坂の写真撮りの楽しみができました。

これまでの活動を振り返って

メンバー　入江 誠

柳の井戸

善福寺前の「柳の井戸」の前を通りかかった。垂れ下がった新緑の柳に目を奪われた。
厳寒とも思える今年の冬、いつの間にか春日和に変わっていた。
それに伴って動植物が目を覚まし、私たちに豊かな環境を与えてくれること、自然の力に感謝を告げたい。
一年を通じて、その時期が来ると季節が変わる「春夏秋冬」がある。
これも太陽のおかげ、「母なる太陽」に感謝を込めて、これからも力強く生きていきます。

メンバー　岡﨑 純子

平成 22 年度から「麻布未来写真館」に参加させていただいております。今年度も楽しく活動できましたことを感謝しています。
飯倉公園で楽しそうに遊ぶ子供達、六本木交差点を行きかう人達、有栖川宮記念公園を散策する外国の方々、麻布十番での十番祭りやさまざまなイベント、麻布のあちこちの桜、紅葉等々、この一年も沢山の写真を撮りました。
私の今年度の一枚は、雪の降った翌日の有栖川宮記念公園の広場です。六本木の喧噪も好きですが、有栖川宮記念公園の静寂には安らぎを感じます。多面性を持っている麻布は、本当に魅力的な街です。

メンバー　櫻井 綾

ナウィン・ラワンチャイクン
「OK のまつり」（2017.9.30 月撮影）

今年は六本木アートナイトの様子を写真におさめたくて、私にしては珍しく夜更かしをしながら撮影して回りました。写真の技術が伴っていないのが残念ですが、様々な作品を楽しみました。特にタイ出身のアーティストであるナウィンさんの作品は新潟、香川、愛知などで開催された芸術祭でも印象に残る作家だったため、当地でも目にすることができて感慨深かったです。これまでの経験上、地元の人と交流し、彼らの肖像を描いているはずなので、六本木西公園での作品もおそらく地元の方々の肖像が描かれているものと思われますが、特に今回はそのような説明が無かったので、機会があれば聞いてみたいものです。今年も多方面でご協力いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

これまでの活動を振り返って

メンバー　鈴木 順二

今年度も麻布未来写真館に参加して、麻布の今昔について多くを学ぶことができました。思いがけないことに、再開発で姿を消した日ヶ窪の写真にも出会え、友達と行った釣り堀や、昆虫を採って歩きまわった少年の日の思い出が蘇りました。

昔のことといえば、家の片付けをしていて、痛んだ竹の文箱を見つけました。中には戦中・戦後の古い書類がはいっていました。昭和 20 年 5 月 25 日の空襲で家が焼かれたときの「家屋焼失證明書」（麻布区長発行）や「罹災證明書」（霞町町会長発行）、戦地から父が帰国したときの「引揚證明書」等々でした。どれも染みのついた紙切れですが、今は亡き祖父母や両親が、時代に翻弄されながら必死に生きたことを静かに、しかししっかりと語っています。

書類の下からは粗末な布袋が出てきました。東京都の紋章と「復興財布 霞町市場」の文字が摺ってあり、裏には俵の上で小槌を振る大黒天が描かれています（霞町は現在の西麻布一・二・三丁目あたり）。戦災で焼けだされ、何もかも失くした霞町の人々に、「頑張りましょうね」という気持ちを込めて配られた財布でしょうか。

書類も布袋も古びてゴミ屑同然ですが、それを捨てきれず箱にしまった親の思いに、考えを巡らしています。

メンバー　田岡 恵美

引き続き、北欧がらみの活動紹介など、よろしくお願いします！

メンバー　椿 由美子

移り変わってゆく街の姿を追い、昔から変わらずそこにあるものを訪ね歩く活動にはいつも新しい発見があり、気がつけば、メンバーとなって 8 年を迎えようとしています。

分科会のあと、麻布で 50 年以上暮らしてこられたメンバーの方とご一緒する帰り道もまた、楽しいひとときです。飯倉片町交差点の向こうに朱色に輝く夜の東京タワーを眺めては、「いつ見てもきれいね」と笑顔を交わしたり、「東京タワーができたばかりのころは、まわりに建物がなくて、風が吹くと『ゴーッ、ゴーッ』とタワーの鉄骨を吹き抜けていく音が聞こえてきてね」と、私の知らない、ひと時代もふた時代も前の麻布の貴重な話を聞かせていただくこともあります。

江戸時代には高台から海を望むこともできたという麻布地区。六本木一丁目界隈の高層ビルからふと窓外に目をやると、一羽のカモメが優雅に中空を舞い飛ぶ姿に遭遇。東京湾の潮風を感じた一瞬でした。

かつて六本木一丁目にあった旧住友会館は、尾根道を往来するたびに目が行く特徴のある建物でした。今年度は、「旧住友会館と住友麻布ハイツアパートのある風景―泉ガーデン今昔」というテーマで、そのなつかしい外観をとりあげたパネルを制作できたこともうれしく思っています。

ご協力をいただいた関係者のみなさま、パネル展にお運びくださったすべての方に、この場を借りてお礼申し上げます。

これまでの活動を振り返って

メンバー　増子 照孔

私の住んでいるマンションは高台にあり、我善坊の上です。坂を下りると我善坊の通りです。我善坊がなくなると聞いていますが、実感がありません。一軒家が多く、草花が通る人を癒します。
麻布未来写真館が区民の方々に少しでも何かお役に立てれば良いと考えております。

メンバー　水野 禮子

麻布地区は歴史・文化・外国人も多く住み、大使館も多く、国際色豊かなまちです。
建築物もどんどん上に高く建ち、遠くまで空が見えていたものが空まで狭く感じられ残念ですが現実はしかたがないのか、まだ続きそうです。
外国人との交流も盛んで近代どのように変わっていく事でしょう。
これからもまち歩きをして自然と歴史・知識等を写真に撮って未来につなげていきたいと思います。

メンバー　横島 久子

今私の住む家の周りには、路地奥の狭い空間があちらこちらにありました。そこには温かいご近所の交流があり、子供が遊ぶ姿を見守る、お隣のおじいさん、おばあさん、お母さんの姿がありました。そして楽しい世間話も聞こえてきました。このような風景はだんだん失われ、路地ではなくマンションが立ち並ぶ風景に変わりつつあります。これが時代の流れというものでしょうか。今は懐かしい思い出の一コマとなりました。

メンバー　吉川 一郎

私の楽しみは知らないことが判ることです。自分の住んでいる「まち」。変化の大きな「まち」。これが麻布です。知らない東京の麻布です。私が住んで 20 年近くなります。刻一刻と変化しています。まるで人の顔のようです。変わっていないと思っていても写真で見ると大きな変化があります。縄文時代が 1 万年続いていた変化よりも今の 10 年の変化が大きいように思えます。この麻布の姿を写真に撮って未来に残せたらと思っています。麻布未来写真館がこの変化を一部始終捉えられるよう努めたい。これを私の目標としていきます。

これまでの活動を振り返って

座長　近藤 敏康

平成 21 年の創立から本年度で 9 年目を迎えた「麻布未来写真館」事業。麻布の今を記録しつつ、麻布にまつわる古い写真を集める活動も、本年度も多くの方々の御協力のもと進めることができました。9 年の月日は、初期に麻布未来写真館で撮影した写真が、すでに麻布の貴重な記録へと変化させ、過去のパネル展で使用した写真パネルの蓄積も多岐にわたるようになりました。

その為、今年は蓄積したパネルを利用しての麻布図書館でのパネル展の開催、常設展示の充実、笄小学校への貸し出し、デジタル化の取り組みなども新たにすすめました。

これからも「麻布未来写真館」事業へのご支援、ご指導、ご協力、古い写真や、古い麻布の音の録音テープのご提供など、何卒よろしくお願い申し上げます。また、新規メンバーも募集しておりますので、お気軽に活動を見学においでいただけると幸いです。

講師　達川 清

メンバー最年長の横島久子さんの住居は我善坊地区にあり、時の移りゆく中、元気にくらしています。近々再開発工事が始まると一変するであろう辺りを一緒に歩き想いを聞きながら撮影をしていると「麻布未来写真館」の活動がいかに有意義であるかを思い知る。

近年、メンバーそれぞれの写真と編集の意図が明確になってきたことは素晴らしいです。

まち歩きの様子

Ⅳ　参考資料

分科会活動記録（平成 29 年度）

平成 29 年	4 月 26 日	第 1 回分科会	（メンバー紹介、平成 29 年度の活動について）
	5 月 10 日	第 2 回分科会	（今年度のテーマ及びまち歩きについて）
	5 月 27 日	第 3 回分科会	（まち歩き：第 1 回撮影 A 日程）
	6 月 11 日	第 3 回分科会	（まち歩き：第 1 回撮影 B 日程）
	6 月 13 日	パネル展	麻布図書館との連携によるパネル展開催（～ 6 /22、 6 /24）
	6 月 28 日	第 4 回分科会	（撮影結果、今後の進め方について）
	7 月 26 日	第 5 回分科会	（今後の活動予定などについて）
	9 月 30 日	第 6 回分科会	（まち歩き：第 2 回撮影 A 日程）
	10 月 1 日	第 6 回分科会	（まち歩き：第 2 回撮影 B 日程）
	10 月 11 日	第 7 回分科会	（撮影結果、パネル展に向けて、パネル作成について）
	11 月 22 日	第 8 回分科会	（パネル作成・パネル展について）
平成 30 年	1 月 10 日	第 9 回分科会	（パネル作成・パネル展について）
	2 月 2 日	パネル展	フジフイルム スクエア ミニギャラリー（～ 2 /15）
	2 月 19 日	パネル展	港区麻布地区総合支所 ロビー（～ 3 / 2 ）
	2 月 28 日	第 10 回分科会	（パネル展について）
	3 月 2 日	パネル展	東洋英和女学院 学院資料・村岡花子文庫展示コーナー（～ 3 /26）
	3 月 6 日	パネル展	ありすいきいきプラザ 展示・読書コーナー（～ 3 /28）
	3 月 14 日	第 11 回分科会	（活動を振り返って）

※これまでの展示とあわせ、今年度は、平成 29 年 6 月 6 日(火)から 6 月 22 日(木)までの間、麻布図書館でパネル展示を開催しました。この展示ではメンバーがこれまでに作成したパネルの中から約 20 点を展示しました。

麻布図書館 5 階 視聴覚室

麻布図書館歴史講座「麻布地名今昔」でのパネル展示

パネル展等の様子

フジフイルム スクエア ミニギャラリー

フジフイルム スクエア ミニギャラリー

港区麻布地区総合支所 ロビー

港区麻布地区総合支所 ロビー

東洋英和女学院 学院資料・村岡花子文庫展示コーナー

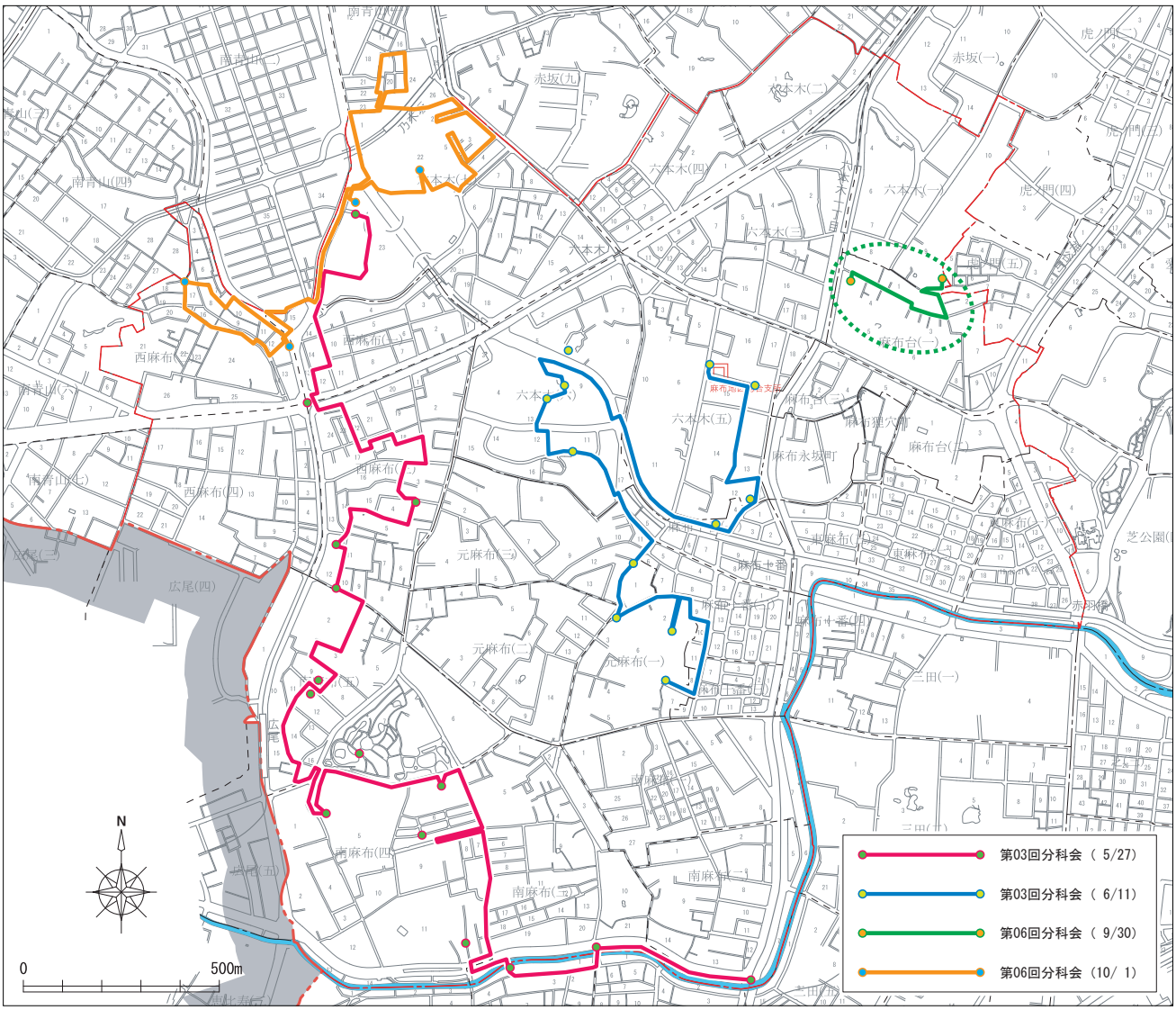
東洋英和女学院 学院資料・村岡花子文庫展示コーナー

ありすいきいきプラザ 1階展示・読書コーナー

ありすいきいきプラザ 1階展示・読書コーナー

まち歩き（撮影）ルート図

今年度の分科会活動では、「麻布未来写真館」事業で麻布のまちの変化を保存する取組として行っている「まち歩き（撮影）」を下図の撮影ルートにより計４回実施しました。



麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会　平成 29 年度 活動報告

刊行物発行番号
29375-1435

平成 30 年（2018 年）３月 発行
発行　港区 麻布地区総合支所 協働推進課
〒 106-8515　東京都港区六本木 5 丁目 16 番 45 号
電話　03-5114-8812

《主な参考文献・資料等》：写真集『麻布ハイツアパート周辺』（平成８年 11 月・日建設計／撮影：篠澤建築写真事務所）、『若い詩人の肖像』伊藤整、『泥濘』『路上』『橡の木』梶井基次郎、『鬼平犯科帳 麻布一本松』池波正太郎、『御宿かわせみ 鬼の面 麻布の秋』平岩弓枝、『大東京繁昌記』島崎藤村、『東京十二契』野坂昭如、『増補 港区近代沿革図集 麻布・六本木』

《古い写真等についての提供及び資料等》：港区立みなと図書館、港区立麻布図書館、片山正 氏、国立天文台・太陽観測所、リライトプロジェクト、泉屋博古館分館、森ビル株式会社、田口重久氏、久國神社

《技術・会場協力等》：達川清 氏（フォトグラファー）、フジフイルム スクエア（富士フイルム株式会社）、学校法人東洋英和女学院、ありすいきいきプラザ、都立中央図書館、港区立麻布図書館（順不同）

◎禁無断転載複製

ファインダーをとおして、未来に向けた新しい麻布を発信していきます。

「麻布未来写真館」

港区麻布地区総合支所では、区民や企業等と協働し、
麻布地区の昔の写真などを収集するとともに、定点写真を撮影し、
麻布のまちの変化を保存する取組として
「麻布未来写真館」事業を実施しています。

麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会
平成 29 年度 活動報告　港区麻布地区総合支所

これまで作成したパネルや活動報告は、Web でもご覧になれます。

港区公式ホームページ
http://www.city.minato.tokyo.jp/

麻布未来写真館　検索

「麻布未来写真館」はこちら

「麻布未来写真館」では、古い写真を探しています！
未来に向けて、残し、伝えていくべきとお感じになる「麻布地区の古写真」がありましたら、どのようなものでもかまいませんので、港区麻布地区総合支所までお寄せください。
詳細につきましては、**協働推進課地区政策担当** までお問合せください。

お問合せ　TEL：03-5114-8812